

第6次宝塚市総合計画(案)に対するパブリック・コメント手続きに基づく意見募集の結果一覧表

資料2

※ 貴重なご意見ありがとうございました。

・意見の募集期間 令和3年(2021年)2月15日(月)～3月16日(火)

意見の採否及び理由等は以下のとおりです。

・提出意見件数 23件

No	項目	ページ	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
1	計画全般に関すること		総合計画の中にSDGsが採用されているとの事、時代の要請に沿ったもので評価する。具体的に17項目をどう実施するのかを計画の中に落とし込んでほしい。	【原案のとおりとします】 総合計画に示すまちづくりの方向性は、SDGsの理念と重なるものであり、総合計画を推進することが、SDGsの推進にも資すると考えています。総合計画においては、基本計画に掲げる各施策分野とSDGsの17の目標の関連を示していませんが、SDGsの視点を意識しながら各施策の展開を図るため、別途、関連付けを行い、整理することについて、今後検討を行ってまいります。	—
2			温暖化により気候破壊は益々大きくなっていく。対策としての宝塚市地域の局部的適応策を入れるべき。審議の中で検討していただきたい。	【原案のとおりとします】 気温の上昇や異常気象の多発など、地球温暖化による影響は既に生じていると考えられ、健康や安全・都市基盤など各分野において、現状への対応や今後の対策の検討を行っています。現状、これらの取組である適応策を抽出、整理、分類することはできていませんので、今後、適応策をより進めていくための課題であると考えています。	—
3			住民との協働の声があるが、実際具体化されていない。市民が参画できる施策がほしい。以前にあった100人委員会のような多数の市民の合議を重ねて、役所のものでなく、市民にとりこんだ行動を起こす動機をつくることである。	【原案のとおりとします】 市内に20あるすべてのまちづくり協議会において令和2年3月までに見直しが行われた地域ごとのまちづくり計画に、地域と市との具体的な協働の取り組みとして合計で約1,000項目が掲げられており、令和3年度以降、これらの具体的な取り組みについて、地域と市が対話を重ねながら取り組んでいくこととしています。	—
4			第6次総合計画は10年先を見据えての計画である。本来は第5次総合計画の結果を検証・分析等し、現在本市が抱える課題や問題点を市民と共有して計画を練っていくことが重要である。しかし、そのあたりが見えてこない。残念ながら概要書を見る限りでは数字に裏打ちされた計画ではなく、心地よい言葉が並ぶ計画であり、内容も第5次総合計画とあまり変わり映えない。 例えば、「安全・都市基盤」について言えば道路老朽化率が86%(令元)の現実を踏まえて安全・快適なまちづくりを目指す方策などを「安全・安心」の柱にするようなことを考えるべきである。	【原案のとおりとします】 第6次宝塚市総合計画(案)の策定にあたっては、「第6次宝塚市総合計画策定に向けた基礎調査報告書」や「市民アンケート調査報告書」、「第5次宝塚市総合計画 後期基本計画 評価検証シート」等を踏まえながら、総合計画審議会において検討を重ねてきたところであり、様々な指標や数値の変化にも留意しながら策定作業を進めてまいりました。これらの資料の一部については、付属資料に掲載(報告書本体は、市ホームページに掲載)していますのでご参照ください。なお、道路の老朽化にかかる問題については、市も認識しており、P29の重点方針[3]の方向性「◆」2つ目で「◆すべての人にやさしい安全で快適な道路環境やバリアフリー化などによる交通環境の整備を推進します。」を掲げています。	—

No	項目	ページ	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
5	計画全般に関すること		<p>宝塚の将来方向や都市像を指し示す重要な計画として、より具体的な都市像とその他の施策を示す必要があるが、具体的な方向性に乏しく、宝塚市がどのような産業で生きていき、どのような魅力的な都市としてデザインされていくのか全く示されていない。</p> <p>「都市づくり」と「まちづくり」が総合的にうまく作用しあって魅力と希望溢れる都市をつくっていかないといけないと思うが、ほとんどが「まち協中心」のわがまちづくり(ほとんどソフトの話)に終始し、重要な都市デザインや都市づくりについては触れられていない。これで総合計画といえるのかはなはだ疑問であり、まったく物足りない。</p> <p>総合計画をより具体的に見える形で提示するには、宝塚市の立地特性、地形地勢特性、そのうえで展開する歴史・文化、自然環境、景観特性、人々の生活環境、産業活動などについて分析・評価し、他市とは異なり宝塚であるからこそ創造できる都市像や都市デザインの在り方を指し示す必要がある。南部市街地の山並みに囲まれた3D立体景観都市をどのように活かすか。</p> <p>西谷の広大な田園・里山環境を宝塚の宝としていかに環境保全を図りながら活用するか。具体的には山麓探訪コースや眺望景観を活かした誘客施策。西谷を活用した、南部密集市街地の生活環境緩和策、コロナ禍の働き方、生き方サポート施策。そのための西谷の市街化調整区域の抜本的な緩和策と土地利用見直しなどである。西谷は概ね50年間調整区域のまま下水道整備や集落排水なども未整備のままであり、新都市計画凍結もあり生かさず殺さず状態である。このままでは貴重な宝が潰れてしまいます。この際西谷を活かした新たな宝塚創生総合計画づくりに変更願う。</p>	<p>【原案のとおりとします。また、今後の参考とさせていただきます】</p> <p>第6次総合計画(案)では、これからのまちづくりにおける重要な視点を「まちづくりの視点」として定めるとともに、地勢や沿革、歴史・文化などの現状を踏まえた「都市づくりの基本的な考え方」を定めています。都市像については、6つのめざすまちの姿を定め、さらに31の施策分野ごとに具体的なめざすまちの姿を定め、その実現に向けた施策については、各分野ごとに大きな方向性を示し、具体的な取組については、分野別計画において定めることとしています。</p> <p>都市景観については、「他市とは異なり宝塚であるからこそ」である「宝塚らしさを感じる景観」を創出し維持保全していくために、宝塚市景観計画で定めた指針や方針、基準に基づき指導・助言を行っていく方針です。</p> <p>北部地域の広大な田園・里山環境は本市の宝であり、今後も守り続けていかなければなりません。これらの貴重な自然資源のもつ魅力を活かしつつ、観光交流等を充実させることとし、引き続き市街化の抑制を図ります。なお、平成30年に条例を制定し、北部地域の土地利用規制について、一定の弾力的運用が開始されています。</p>	—

No	項目	ページ	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
6	計画全般に関すること		<p>第6次総合計画を作成するにあたり、宝塚市にとって、極めて重要な考慮すべき点を取り入れた中で最終案を作っていたいただきたく、意見具申をいたします。</p> <p>宝塚市はブランドイメージで宝塚歌劇団のお蔭で日本国内の中で最高水準にあると言っているのではないと思っています。しかしながらここ最近（過去12年）の行財政運営は進むべき方向を誤ったと思える実態が顕著に表れ、宝塚市の将来が危ぶまれる危機的状況に直面しています。</p> <p>顕著な事例とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市道などの老朽化率がほぼ9割となってきた。インフラ整備（市道路、学校施設、公共施設）が進まず、老朽化が著しい状況となっている。 2. 中学校の7割が築後（特に体育館）40年を経過しており具体的な改善計画が出てこない。（大事な学校教育が将来を担う世代の人に伝わっていかない） 3. 県内最古のゴミ焼却場立替建設が大幅に遅れている。2年前の尼崎市の焼却援助（有料で受けてくれた）を仰ぐ事態が新建設完成までに再度予想される。また立替費用が当初計画の実行ずれで費用が増えてきていると聞いている（300億円とも聞いている）。こんな大事な計画が予定通りの建設時期と当初予算で出来ないのは大きな問題だと思います。 4. 宝塚市民病院事業の資金が枯渇しており、正常な病院経営が出来ない状況となってきた。その中で資金不足比率が13.6%（15.4億円）と3年連続で資金不足となっている。市民病院は急性期医療の砦となることを基本方針としており、そのことを守れる体制にあるのか、自治体病院統合が各市で予定されているが、宝塚市はそれさえも予定されていないという情報がない。 <p>上記状況から判断して、現状の市財政を分析してみると、今後5年間で約65億円の財源不足（過去最悪）と予測され、これを正常な形に一日でも早く戻す努力無くして、宝塚市の生き残りは無いと思います。</p> <p>それには抜本的な見直しが必要だと思います。具体案としては民生費の大幅カット、総務費の大幅な見直し（カット）、また人件費と扶助費で税収が消えていく構造の大幅是正、言い換えればまちづくり投資が極めて貧弱では、宝塚市は生き残れない崖っぷちの状況に追い込まれているという認識を先ず、第一に持たねばならないと思います。（とても1年、2年では財政改善は出来ないと思いますが、今から着手し、不転の覚悟で宝塚市、また市民が協力すれば3年から4年後には実を結ぶと思っています）。</p> <p>総合計画を策定するにあたっては、上記点を考慮した形で諸計画を立てることが肝要で、上記行政改革なしで従来作成してきた総合計画と同じような取り組みとなってしまう、何度も言いますが、宝塚市は生き残れないと思っています。</p> <p>第6次総計（案）の中にページ160 (2) 主な成果と今後の課題に記述されている課題内容では具体性がなく、また私の上述指摘点がカバーされていません。</p> <p>結論として、上記意見を反映した形で過去総計の取り組みから逸脱した中で、第6総計が出来上がりますのを期待しております。</p>	<p>【今後の参考とさせていただきます】</p> <p>令和3年度の当初予算では建物施設やインフラの老朽化が進行していることから老朽化対応に要する経費を別枠として確保しました。引き続き、建物施設やインフラの老朽化に対応する予算配分に努めてまいります。今後も厳しい財政状況を見込んでおり、このような中、建物施設やインフラの老朽化対策などさまざまな課題に対応していく必要があると認識しています。行財政基盤の強化に向けて、成果の視点での事務事業の検証や実施方法の見直し、歳入の確保などに鋭意取り組み、総合計画を推進してまいります。</p>	—
7	と特定の部分に関すること	10、13	<p>基本構想 3つの「まちづくりの視点」の●視点3の中に、宝塚らしい魅力・・・、そして「6つのめざまちの姿」で●まちの姿6の中に「宝塚らしい」にぎわい・・・といったように『宝塚らしい』という表現が出てきますが、“宝塚らしい”とはどういう様子をいうのか、どういうことなのか？考えてみても良く分かりません。どこかに具体的に表現されているのでしょうか。市民に周知されていることなのでしょうか。何を指しているのかわからなければ目標にすることもできません。もっと具体的にわかる表現をしていただかないとまちづくり実現に向かって取り組めないのではないのでしょうか。</p>	<p>【今後の参考とさせていただきます】</p> <p>宝塚らしい魅力を備えたまちのにぎわいや、宝塚らしい”にぎわい”については、各論欄「現状と課題」やそれぞれの分野別計画などにも随所に記載していますが、例えば寺社参拝、観劇などの来宝者が多いことや市民や来宝者に様々な文化芸術に触れる機会が提供されていることなどがあげられます。「宝塚らしさ」は様々な感覚や価値観などに基づくものであると考えており、説明や注釈などは設けていません。</p>	—

No	項目	ページ	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
8	特定の部分に関すること	11、54	<p>「北部地域」集落住民の生活環境の充実を図るとともに、山林などの豊かな緑や水辺、農地など、自然環境と田園環境の保全に努めます。・・・西谷の住民生活の生活環境改善策として、少なくとも各戸浄化槽ではなく集落排水整備を図ったり、ミニスーパーやコンビニ、地域特性に合わせた飲食店などの整備が必要である。また、人口減少がとどまらない状況を改善するために、交流人口を増大し、移住人口が増えるような仕組みを整える必要がある。また、県所有の約1200haの里山の適正な活用や環境保全を図りながら適切な土地利用を図るなど西谷の活性化に資するような施策が必須。</p> <p>従来通りの総合計画を踏襲するだけでは折角これまで持ちこたえてきた西谷の人々の努力を無にするだけである。今がその瀬戸際であることを十分認識した計画にすべきと考える。あくまで西谷の人々の生活産業環境を維持したうえで計画ですが。</p> <p>参考までに：西谷は①市人口の約1%2400人、②市面積の約6割、③武庫川流域面積の約10%、④西谷の面積の2割約1200ヘクタールが県有地（土地利用未確定）であり、⑤全域市街化調整区域(1970年から50年間)、西谷を上手に活かすことが新しい宝塚づくりに結びつきます。宝塚の観光、産業、健康増進、交流促進、教育改革など西谷を活かすことが宝塚の再生と誇りある都市づくり魅力づくりにつながります。また、西谷から人がいなくなり田園や里山が荒廃すると保水力がなくなり、武庫川の洪水危険度が10%増大することにもなります。このように多角的視点から都市を分析評価したうえで具体的な土地利用方針と都市づくり・デザイン方針を示すことが重要です。</p>	<p>【原案のとおりとします。また、今後の参考とさせていただきます】</p> <p>集落排水施設に関しては、多額の費用を要することから導入は困難であると考えています。一方、北部地域の活性化は課題であると認識しており、西谷産の原材料を使用した地域ブランドの構築に向けた取組や「宝塚 花の里・西谷」の演出にかかる取組、北部地域の住宅や店舗の建設等にかかる土地利用規制の一定の弾力的運用、その他地域の活性化に向けた取組を進めているところです。</p> <p>今後は、地元住民主体で実施する空き家を活用した移住の受け皿づくりとして、ポータルサイトの構築や移住希望者とのマッチング等にかかる支援に取り組んでいくとともに、たからづか北部地域土地利用計画の説明会や勉強会を行うなど、地区ごとの実情に合わせ、住民主体のまちづくりの機運向上に向けて取り組んでいきます。</p>	—
9		11	<p>地域の特性を生かした拠点づくり・・・「西谷庁舎周辺・・・」「宝塚北サービスエリア周辺など・・・」と拠点を限定しているが、広大な西谷エリアを活性化するにはもう少し多核的な拠点、テーマの異なる拠点づくりが必要である。また拠点間を結ぶレンタサイクルなどの仕掛けも必要である。南部市街地からはパーク&サイクルや、休日のミニバス運行など必要。4月から宝塚駅前～西谷間バスの廃止などますます不便になる。西谷の活性化が必要な重要な時期に何故こんな事態になるのか。行政と阪急バスの真摯な協議があったのかはなはだ疑問である。他予算を削ってでも復活すべき。</p>	<p>【今後の参考とさせていただきます】</p> <p>西谷庁舎周辺には、既にコミュニティー施設や農業振興施設、公益施設が集積しており、日常利便機能や行政サービス機能の拠点となっています。その他のエリアにおいても、拠点として機能するものがあれば、それらを生かし活用することを推進していくこととします。</p> <p>北部地域の公共交通については、地域特性に応じた公共交通の確保について、検討を進めます。</p>	—
10		13	<p>(2)～(6)の図の下に、都市づくりの重要なベースとして「西谷」を活かす、という表現を入れる。</p>	<p>【原案のとおりとします】</p> <p>P13の(1)～(6)の図は、北部地域に限らず、南部地域も含めた本市全域のめざましの姿を示したものであり、一部のエリアに関する記載は難しいことから、原案のとおりとします。</p>	—
11		25	<p>本市はWHOが提唱するエイジフレンドリーシティ「おたがいさま」が溢れるまちづくりを基本理念としてきた。今般、総論の5つの基本的な考え方をみると5番目に「SDG sの視点を意識した施策の推進」とある。幅が狭いエイジフレンドリーシティから、世界共通のSDG sへの取組は評価に値する。尤もSDG sは全てを包含網羅するものであり、本来は総論の基本的な考え方の初めに「SDG sの視点を意識した施策の推進」があるべきと思う。</p>	<p>【原案のとおりとします】</p> <p>基本計画【総論】の「3 計画の推進に向けて (1) 基本的な考え方」において、5つの基本的な考え方を示していますが、「SDG sの視点を意識した施策の推進」に限らず、これら5つは、すべての施策に関連する基本的な考え方であると考えています。「SDG sの視点を意識した施策の推進」だけがすべての施策に関連するという訳ではないため、原案のとおりとします。</p>	—

No	項目	ページ	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
12	特定の部分に関すること	41、42	<p>〔開かれた市政〕について</p> <p>市ホームページのアクセス数についての記載がありますが、市役所へ直接出向いた人数の方も大事ではないかと思ひます。コロナ禍ではありますが、市役所へ出向き、多くの課を活用し対話することは大事だと思ひます。</p> <p>その為には、現在、市役所へのアクセスは、市内の多くの方にとって乗り継ぎが必要ですが、これもコミュニティバスの活用などで改善して頂きたいポイントです。</p> <p>そして、より良い街・暮らしを望んで何か意見や提案を出す「予算がない」と言われます。こう返つてくると、市民の多くの方が希望を失います。仕方ないとは思ひますが、せめて「予算の見える化」をして頂きたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p>	<p>【今後の参考とさせていただきます】</p> <p>市民の方に市役所に直接お越しいただいたり、あるいは市職員が地域にお伺ひしたりするなどにより、対話することが大切なことと考えています。</p> <p>市役所へのアクセスも含めた市内の公共交通については、本市の状況を踏まえ、検証を行いながら、社会情勢の変化等に応じた宝塚市地域公共交通計画を策定し、取組を進める方針です。</p> <p>また、「予算の見える化」につきましては、宝塚市の予算を作成し、主な増減理由や主な新規拡充事業などについて市HPでお知らせするとともに、市広報誌で概要をお知らせしています。今後もよりわかりやすい「予算の見える化」に向けて取り組んでまいります。</p>	—
13		45	<p>人件費、扶助費、公債費、繰出金、投資的経費の推移のグラフ</p> <p>グラフの中で扶助費がどんどん増大し9年間で概ね40%も増大している。逆に投資的経費はほとんど伸びず、都市の更新や魅力づくりなど誘客や生活・産業基盤づくりへの費用に滞りがみられるような財政構造が「効率的・効果的な市民サービスが提供されている」として捉えていいのはなほ疑問である。扶助費の見直しなど抜本的な対策や税金未納者への徴収対策など歳入改善と歳出構造の見直しが喫緊の課題である。</p>	<p>【今後の参考とさせていただきます】</p> <p>令和3年度の当初予算では建物施設やインフラの老朽化が進行していることから老朽化対応に要する経費を別枠として確保しました。引き続き、建物施設やインフラの老朽化に対応する予算配分に努めてまいります。今後も厳しい財政状況を見込んでおり、このような中、建物施設やインフラの老朽化対策などさまざまな課題に対応していく必要があると認識しています。行財政基盤の強化に向けて、成果の視点での事務事業の検証や実施方法の見直し、歳入の確保などに鋭意取り組み、総合計画を推進してまいります。</p>	—
14		46	<p>経常収支比率は行財政運営を推進する上で重要な財政指標である。しかしながら目指す方向性は、との表示のみで分かりにくい。経常収支比率の改善が市政運営にも大きく影響することでもあり、めざす方向性【数値目標】を明確に示すべきである。</p> <p>例えば 2019年度実績 (96.8%) ➡2025年度目標 (95.0%) ➡2028年度目標 (93.0%) 数値目標がない限りは施策や運営が曖昧になり、確りとしたPDCAサークルが回らずに計画倒れに終わってしまう。行財政経営と謳うならば全ての成課指標に数値目標を設定して結果検証をすることで漸く健全な財政運営の方向性が見えてくる。</p>	<p>【原案のとおりとします】</p> <p>成果指標にかかる数値目標については、第6次総合計画では記載せず、策定後に毎年行う評価・検証の中で目標を立て進捗管理していきたいと考えているため、原案のとおりとします。</p>	—
15	57、58	<p>山の手では、住宅街や駅前ですえ歩道の整備ができていない箇所が多く存在し、歩行者のすぐ横を車がスピードを緩めずに通り過ぎているのが現状である。健常者の大人であっても歩行の際に危ないと感じる箇所は多く、常に車に気を配っているため、子どもや高齢者、障がい者はより怖い思いをしていると考えられる。これまで大きな事故が起きていないのは、ドライバーの技量と歩行者の注意に頼っているところが大きい。高齢者や現交通機関での移動が難しい層向けの新たな移動手段が具体的に確保できていない今、高齢者ドライバーや、技量不足のドライバー等の危険運転による大きな事故がいつ起きてもおかしくない状況である。</p> <p>計画案には「地域と連携した通学路の安全対策」や、「人にやさしい交通環境の整備」と記載されているが、具体性に欠けているように感じる。まずは歩道の整備（十分な幅員の確保・ガードレールの設置）など、最低限のハード面でのインフラ整備の約束が必要であり、そのように記載すべきと考える。</p>	<p>【原案のとおりとします。また、今後の参考とさせていただきます】</p> <p>本市では、幹線道路の整備が遅れ、生活道路に車両等が入り込むことご指摘のような危険な状況が生じているため、P.57、58に記載のとおり、都市計画道路などの計画的な整備を進める一方で、通学路については、地域の方との協働により危険箇所を抽出し、安全対策を推進しています。</p> <p>今回のご意見については、今後の参考として引き続き計画的、効率的な道路整備に努めます。</p>	—	

No	項目	ページ	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
16	特定の部分に関する事	71、72	<p>施策の内容があまりにも雑駁でお粗末である。もっと具体的に現状と今後の指標を数値で示すべきである。71頁に生活保護世帯数や一人当たりの医療費の推移など記載されているが、成果を示す指標が全くない。また市民がすべき取組が見えてこない。総論であっても最低のミッションは記述すべきである。例えば生活保護受給者の就労を支援するのであれば過去実績と目標を記載すべきである。歳出に占める民生費割合は4.6%と全国平均比7%高いことを考えるなら社会保障問題は極めて重要である。</p>	<p>【計画案に一部反映します】</p> <p>成果指標にかかる数値目標については、第6次総合計画では記載せず、策定後に毎年行う評価・検証の中で目標を立て進捗管理していきたいと考えています。市民の取組については、市内に20あるまちづくり協議会が取りまとめた「地域ごとのまちづくり計画」を新たに総合計画に位置付けており、市民と行政の協働で計画を推進し、取組を進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、施策の内容については、ご意見のとおり丁寧な記述が必要と考えるため計画案に反映します。</p>	<p>施策分野「社会保障」の施策（P72）について以下のとおり修正します。</p> <p>【修正前】</p> <p>施策（1） 「○生活保護法や生活困窮者自立支援法に基づき相談支援体制の充実…」 「○ハローワーク…就労支援の充実を図ります」</p> <p>施策（2） 「○国民健康保険制度を健全に運営します」 「○福祉医療費助成制度を適切に運営します」 「○後期高齢者医療制度を適切に運営します」</p> <p>↓</p> <p>【修正後】</p> <p>施策（1） 「○生活保護法や生活困窮者自立支援法に基づき適切な支援が確実に行えるよう関係機関が連携し、相談支援体制の充実…」 「○ハローワーク…就労支援の充実を図り、生活困窮者等の経済的自立を支援します」</p> <p>施策（2） 「○国民健康保険税収入の確保や医療費の適正化に努めるなど国民健康保険制度を健全に運営します」 「○医療費負担を軽減し、安心して医療を受けることができるよう福祉医療費助成制度を適切に運営します」 「○高齢化の進展に伴う被保険者数の増加を踏まえながら、後期高齢者医療制度を適切に運営します」</p>
17		73	<p>「4 子ども・教育」1 児童福祉・青少年育成 くめざすまちの姿> ・種々の問題点課題を現状として表現されているが、具体的には「相談・支援が求められている」「保育・教育の供給量と質の両面での施策が求められている」「有害環境から子どもを守る取組みが求められています」「青少年の健全育成と自立が求められています」 ・上述の様な支援対応策で表現されていますが、具体的にどの様な対策で実施したいのかの表現がない。 ついでに、市の財政が厳しい事は十分に認識していますが「子育てに関する助成金等を増やす事を具体的に表現する」事により出来るだけ、子どもの貧困と言われる事を減少させる。 (例) 1、新婚家庭には（市内在住）一組に5万円を贈呈する。 2、新生児1人に5万円贈呈する。等の予算化の計画実施。 しかるに、現在の高齢者の補助金の減少を計画する。 ◎この事が市民の減少対策を意味する。（重要と考える。）</p>	<p>【原案のとおりとします】</p> <p>本市では分野別計画として、宝塚市次世代育成支援行動計画たからっ子「育み」プラン後期計画を策定しており、子どもの貧困対策計画を包含しています。ここでは、「教育の支援」、「生活の支援」、「保護者に対する就労の支援」、「経済的支援」を重点化するべき施策として、そのあり方の検討と取組を進めるものとしています。</p> <p>ご意見いただいた子どもの貧困を減少させるための支援については、市の財政状況、庁内各課で関連して実施している個別事業との関係、国からの支援策の動向も踏まえ、対策を検討していきたいと考えています。</p>	—

No	項目	ページ	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
18	特定の部分に関すること	80	<p>(1)「宝塚らしさを感じる景観」の魅力の向上 ○新たな制度設計やガイドラインについて検討します。 ①「都市景観」は単に景観という概念にとどまらず、歴史・文化資源、自然環境、産業資源、生活環境など地域ごとの匂いも含めて「景観」が成り立っている。したがって、単に文化財単独を取り上げて保全や維持対策というのではなく、その地区、地域一体となった施策が必要である。都市計画課、社会教育課、その他関係各課・各々が協議し宝塚の魅力をどのように保全し育成していくかというスタンスで具体策を検討すべきである。 ②また、3D立体景観都市の南部市街地は武庫川と六甲山系及び中山連山で景観構造が作られており、それぞれの市街地から背景の山並みが舞台装置のような役割を果たしている。この宝塚固有の特性を上手に活用した都市づくりや景観誘導が必要である。 山麓や中腹からは逆に眺望点や展望ポイントがあまた在り、公園など公有地のポイントを上手に結ぶ景観探訪コースなどが仕組みれば宝塚の都市魅力が倍增すると思う。 ③私の「宝塚景観まちあるき会」ではこのような視点からガイドブックを作成したり、景観まちあるき活動を実施しているが、市民が常日頃から街を歩き健康増進と街並み探訪を行い、途中の飲食店で交流会をするなど街の活性化と景観点検？を兼ねた活動を行っている。この活動には多くの賛同者が集まり、市民の関心の高さが伝わる。これらをベースに「(仮称)宝塚景観マイスター制度」をつくり都市づくりのサポートができればと考えている。</p>	<p>【今後の参考とさせていただきます】 「宝塚らしさを感じる景観」を創出し維持保全していくためには、住民主体のまちづくりや情報の発信により、市民意識の向上を図ることが非常に重要であると考えています。今後も市民と共に宝塚らしさを感じる景観を「守る、育てる、つくる」の取組を行っていきたくと考えています。</p>	—
19		85	<p>[4]循環型社会の現状と課題について 新ごみ処理施設の整備は、何故必要なのでしょう。人口が減って来るのであればゴミも減り、必要ないのではないかと思います。 個人的には、ごみ処理施設を新設するのであれば、リサイクル施設が欲しいと前から思っていました。川西市の「ゆめほたる」のように、子供と環境やリサイクルについて学べたり、まだリユース出来る物を持ち込める場所があると素敵だと思います。 よろしく願いいたします。</p>	<p>【原案のとおりとします】 人々が生活していく中では、いろいろな不要物が発生します。台所ごみは昔から調理層など一人当たり1日200～250グラム発生しており、現在でもあまり変わってはいません。これらのごみを衛生的に処理するためには新ごみ処理施設は必要不可欠な施設です。 また、循環型社会を構築していくには、限りある資源を大切に使い、ごみにせが活用することが大切です。現在のクリーンセンターでもごみとして排出された全てのごみの約3割を資源化しています。新ごみ処理施設でも同様に資源化する施設も整備してまいります。 さらに施設内には環境学習、理科学習ができる啓発設備を設ける予定としています。</p>	—
20		89	<p>(現状と課題)3行目 観光入込客について申し上げたい。2018年には新名神サービスエリア(新名神SA)に300万人が訪れ、本市の年間観光入込客は1,180万人とあるが、これは数合わせに過ぎず実際の観光客数の意味合いと大きく乖離しているのではないだろうか。 新名神SAはトイレ休憩や食事・土産物を求める通りすがりの人々が立ち寄る場所であり、売れ筋土産の一番が「赤福」と聞いて愕然とする。残念ながら、インターを降りて西谷地区や宝塚の市内中心部に向かう観光客は少なく、また降りてこられても観光客等を受け入れるような施設は乏しい。 観光入込客数の多さを誇るのも悪くはないが、実態は大きく違う。施策についても失礼ながら目新しいことはなく、成果指標に数値が示されていないので具体的な施策と実効性が見えてこない。 近隣他市では駅周辺に観光案内所を設置し土産品も販売している中で、本市の観光政策は資金的にも貧相であり、今後も国際観光都市を標榜するならば真の観光客が来訪する本市のあり方を具体的に示すべきである。</p>	<p>【原案のとおりとします。また今後の参考とさせていただきます。】 ご指摘のとおり、平成30年度(2018年度)の観光入込客数11,789千人のうち、宝塚北SAには3,108千人が訪れており、観光入込客数を大きく底上げする形となっています。一方で、令和2年度(2020年度)の観光入込客数の目標値であった9,300千人に対し、当初想定していなかった宝塚北SAの数値を差し引くと8,681千人となり、実質目標には至らないこととなります。また、観光客数だけでなく、観光消費を地域経済に好循環させる仕組みづくりも本市の観光施策における課題であると認識しており、ご指摘にもあるように宝塚北SAの訪問者に対し、市内観光資源への誘客や消費を促す施策展開も必要であると考えています。 今後の観光施策の詳細については、関連する主な分野別計画として「観光振興戦略」の策定に取り組んでいます。令和3年度(2021年度)からこの総合計画及び戦略に沿い、施策展開を図ってまいります。</p>	—

No	項目	ページ	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
21		95	<p>「4 雇用・労働環境」 (めざますまちの姿) ・誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。 ×宝塚市は約20年前までは大企業の出先工場も有りましたが、国の経済状況も大きく変化した事により、現在では大企業の工場は少なくなり現実には「ロックポイント(安倉)」位と成って来ている。(事業税の大幅な減少) つきましては、新名神高速道路が開通して交通網の利点を活用した立地条件を主体とした「企業誘致の促進」を市の約60%を占める西谷地区の活用を表現して欲しい。 ◎誘致企業に関しては「優遇税制」の活用を実施する。 (・5年間は無税とする。) ◎市内での雇用の促進。</p>	<p>【今後の参考とさせていただきます】 ご指摘のとおり「雇用・労働環境」と「商工業」は密接に関連しています。「雇用・労働環境」においては若者、高齢者、障害(がい)者や女性など誰もが今よりも一層活躍し、いきいきと働くことができるよう民間事業者を含む関係機関などと連携すること、「商工業」においては起業への支援や既存事業所継続への支援などを掲げ、連携して産業振興を図ることとしています。市内における商工業の現状と課題については、いただきましたご意見も参考に宝塚北SICの活用も含めた今後の産業振興を図っていく予定です。</p>	—
22	特定の部分に関する事	97	<p>6 観光・産業・文化 5 文化・国際交流 (めざますまちの姿) ・多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や・・・産業などとの連携が進んでいる。 ・国内外の人々との・・・異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。 ×現市政の最大失敗は(市議員含む)「文化芸術センターの建設で有る」現状では集客も見込めず、維持管理費だけでも損失と成っており、現実面での様な改善するかの表現を明確にしなければ市民は納得しない。つきましては、途方も無い提案では有りますが「中国雑技団」の定期公演を検討してはいかがですか。(・中国雑技団への接触は人脈を使って対応できます。しかし、予算立てが重要です。・・・中国領事館とのパイプは有ります。) ◎芸術センターの有効利用を検討するべきと提案します。</p>	<p>【今後の参考とさせていただきます】 文化芸術センターでは、大規模なイベントの開催は見送っているところですが、週末になるとギャラリーでの作品展示、広場でのパフォーマンス、また庭園などではマルシェが開催されるなど多くの方で賑わっています。当面は、感染症対策を行いながら、このような小さな催しを積み重ねることで、日常的に訪れたいくなる施設を目指していきたいと考えています 施設の運営に当たっては、指定管理者制度を採用して、民間のノウハウを最大限に活用し、効率的かつ効果的な事業展開に努めています。 中国雑技団の公演については、旧ファミリーランドでも開催されていたこともあり、興味深いご提案ですので、今後の参考とさせていただきます。</p>	—
23	概要版5、6		<p>この第6次宝塚市総合計画は、2021年～2030年の10年とあります。昨年10月に日本政府は、2050年目標～温室効果ガス実質ゼロを実現すると表明されました。2030年までにどれ位のCO2を削減するかは未だ不明ですが、この10年の私達の行動が非常に重要であるとIPCCは言っております。まさに気候変動危機はすでに世界の共通の認識として理解され、又、宝塚市議会においても、昨年「気候危機に対して宝塚市の適切な対応を求める請願」が採択されました。この点を踏まえて2点、申し述べます。</p> <p>・5ページの基本的な考え方 危機への対応 当然、危機には色々なものが考えられ、多々ある事は承知しているが抽象的である。一部防災等気候変動危機を具体的に文言明記する。 ・6ページの31の施策分野5の4 循環型社会 → 循環型社会・脱炭素社会 とする。</p> <p>以上の内容は、SDGsには組み込まれてはいますが、改めて文言明記することにより、私達に意識喚起するものと考えます。</p>	<p>【原案のとおりとします】 概要版では記載しておりませんが、本編のP25において、危機への対応の具体内容として、「③危機への対応 災害や感染症の蔓延は、市民生活や地域経済に未曾有の影響を与え、今までの暮らし方や働き方を一変させます。こうした事態も見据え、暮らしや地域経済を持続的に支えていきます。」と記載しており、気候変動により増大が予測される災害も包含した内容としていることから原案のとおりとします。 「循環型社会」の施策分野では、ごみの発生抑制や資源のリサイクルの推進などに関する内容を取り扱っていますが、この内容は「脱炭素社会」に関する内容の一部です。「脱炭素社会」については多くの施策で関連がありますが、主に「環境保全」の施策分野で取り扱っています。</p>	—